

## 内 容

山口県診療放射線技師会  
夏季講習会

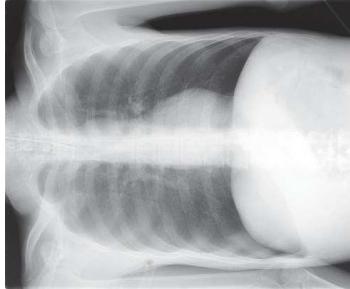
### 外傷診療における救急撮影技術

りんくう総合医療センター  
藤村 一郎

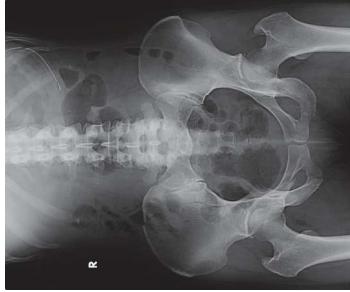
- 胸部・骨盤単純X線撮影の注意点
- 治療方針を左右する重症外傷とは
  - ・臓器損傷分類
  - ・治療方針を考えるための8項目
  - ・骨折の重程度
- 外傷全身CT撮影
- バックボードがCT撮影に及ぼす影響

## 内 容

- 胸部・骨盤単純X線撮影の注意点
- 治療方針を左右する重症外傷とは
  - ・臓器損傷分類
  - ・治療方針を考えるための8項目
  - ・骨折の重程度
- 外傷全身CT撮影
- バックボードがCT撮影に及ぼす影響



### 外傷初期診療の単純X線撮影



### 胸部外傷の病態

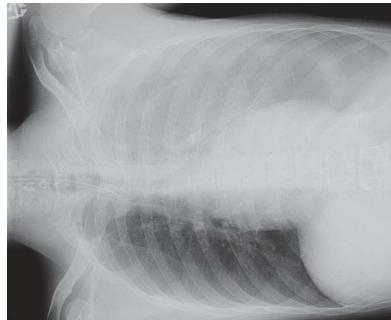
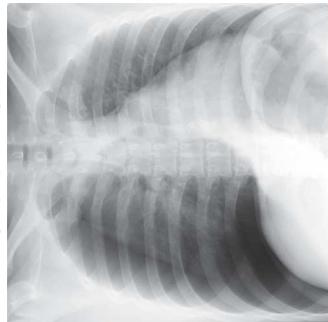
Primary survey	Secondary survey	Primary survey	Secondary survey
<ul style="list-style-type: none"><li>・気道閉塞</li><li>・緊張性気胸</li><li>・フレイルチエスト</li><li>・大量血胸</li><li>・心タンポナーデ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・気道閉塞</li><li>・緊張性気胸</li><li>・フレイルチエスト</li><li>・大量血胸</li><li>・心タンポナーデ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・気胸</li><li>・血胸</li><li>・肺挫傷(裂傷)</li><li>・気管・気管支損傷</li><li>・鈍的心損傷</li><li>・外傷性大動脈損傷</li><li>・外傷性横隔膜損傷</li><li>・外傷性食道損傷</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・気胸</li><li>・血胸</li><li>・肺挫傷(裂傷)</li><li>・気管・気管支損傷</li><li>・鈍的心損傷</li><li>・外傷性大動脈損傷</li><li>・外傷性横隔膜損傷</li><li>・外傷性食道損傷</li></ul>

### 胸部外傷の病態

## CTに行けない

緊張性気胸

大量血胸



## 胸部外傷の病態

### Secondary survey

- ・気道閉塞
- ・緊張性気胸
- ・フレイルチエスト
- ・大量血胸
- ・心タンポナーデ
- ・気胸
- ・血胸
- ・肺挫傷(裂傷)
- ・気管・気管支損傷
- ・鈍的心損傷
- ・外傷性大動脈損傷
- ・外傷性横隔膜損傷
- ・外傷性食道損傷

### Primary survey

- ・気道閉塞
- ・緊張性気胸
- ・フレイルチエスト
- ・大量血胸
- ・心タンポナーデ

## 胸部外傷の病態

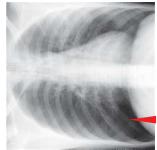
### Secondary survey

- ・気道閉塞
- ・緊張性気胸
- ・フレイルチエスト
- ・大量血胸
- ・心タンポナーデ
- ・気胸
- ・血胸
- ・肺挫傷(裂傷)
- ・気管・気管支損傷
- ・鈍的心損傷
- ・外傷性大動脈損傷
- ・外傷性横隔膜損傷
- ・外傷性食道損傷

## 気胸の背臥位X線所見

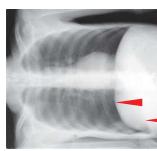
### Basilar hyperlucency

肺底部の透過性更新



### Double diaphragm sign

横隔膜の二重輪郭像



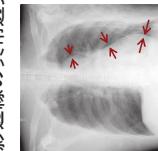
### Depression of diaphragm

横隔膜の下方変位



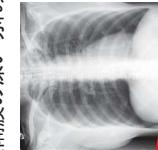
### Medial stripe sign

心陰影辺縁の異常透亮像



### Deep sulcus sign

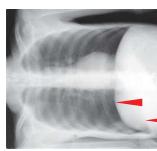
肋横隔膜の深い切れ込み



## 気胸の背臥位X線所見

### Double diaphragm sign

横隔膜の二重輪郭像



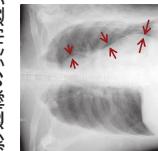
### Depression of diaphragm

横隔膜の下方変位



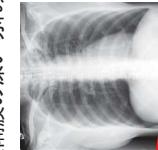
### Medial stripe sign

心陰影辺縁の異常透亮像



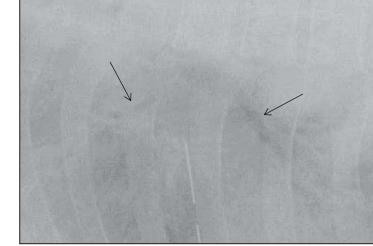
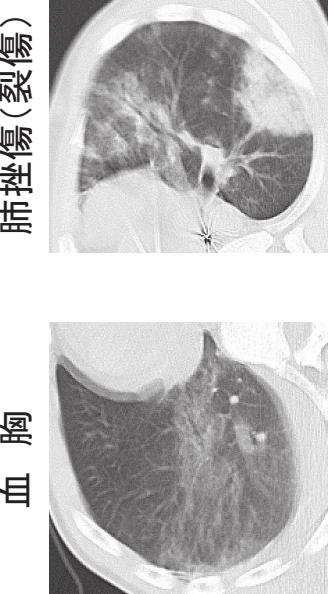
### Deep sulcus sign

肋横隔膜の深い切れ込み

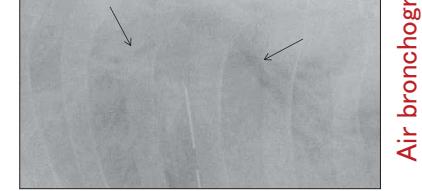
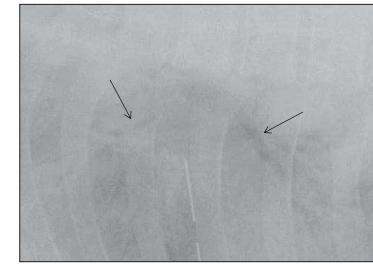
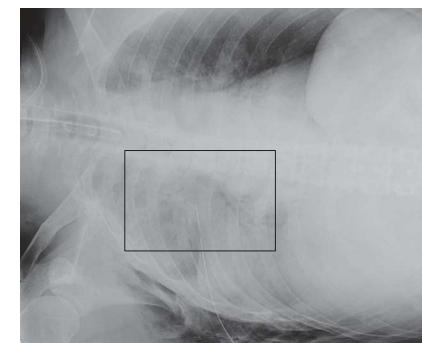


## 血胸 + 肺挫傷(裂傷)

### 血胸



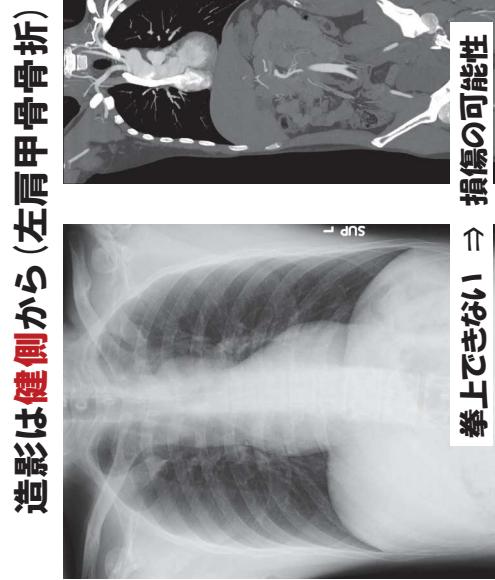
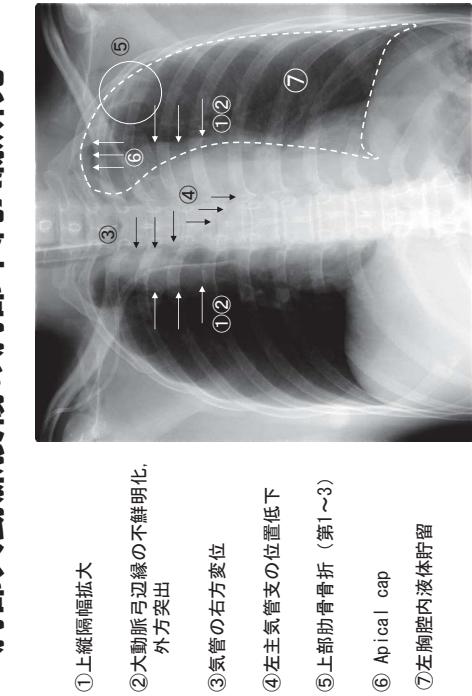
治療方針が異なる



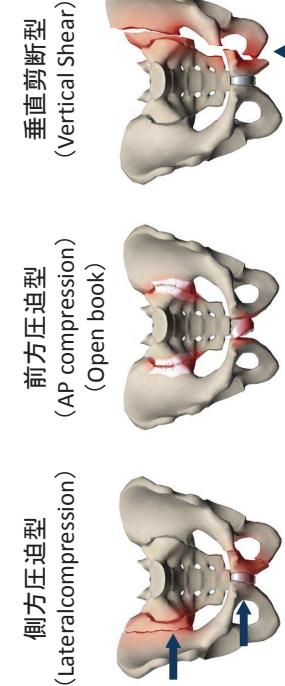
Air bronchogram

## 胸部大動脈損傷の胸部単純X線所見

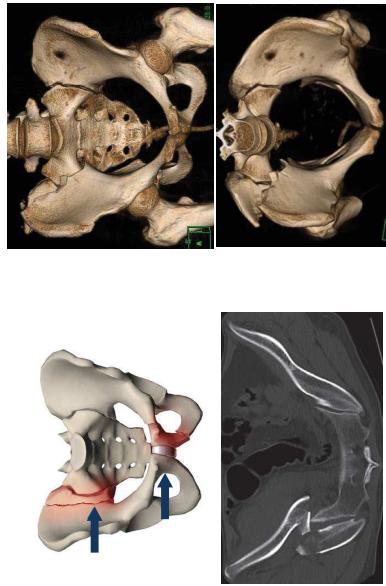
失敗例



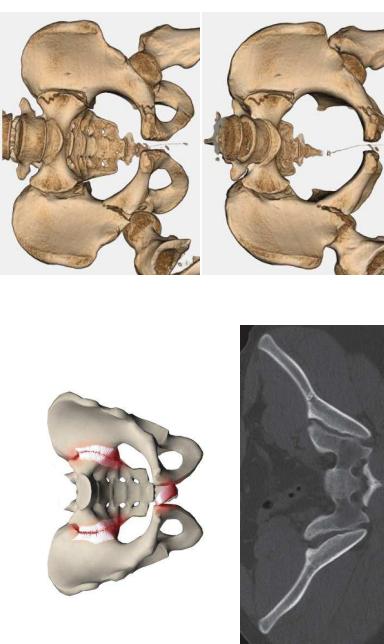
## 外力が加わった方向による骨盤損傷分類



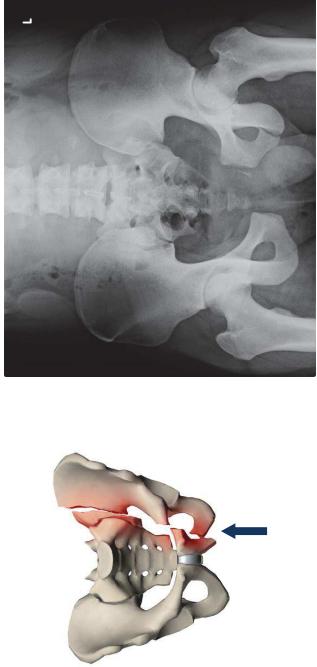
## 側方圧迫型骨盤骨折 (Lateral compression)



## 前方圧迫型骨盤骨折 (AP compression, Open book)



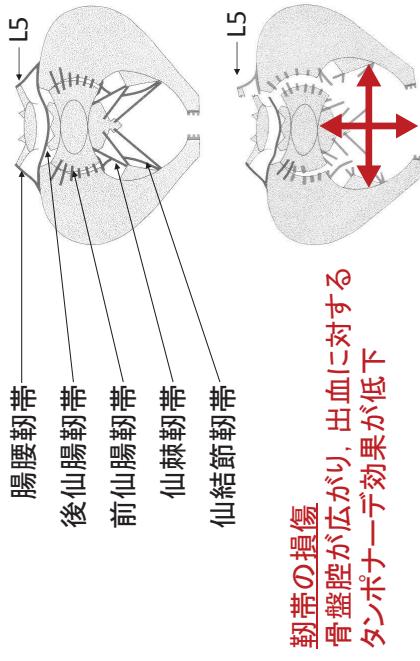
## 垂直剪断型骨盤骨折 (Vertical Shear)



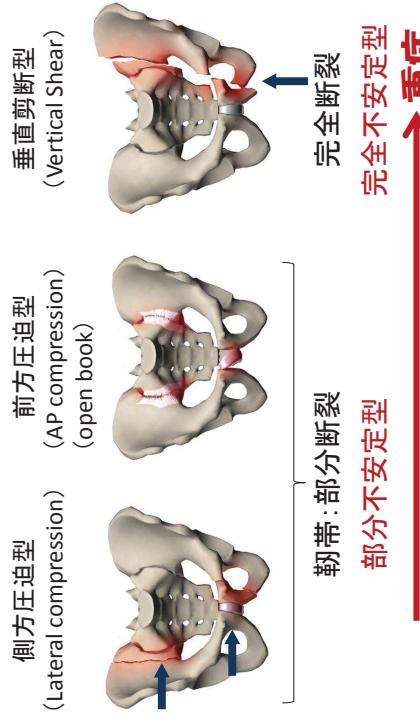
前方からの外力で腸骨翼が外に開き、恥骨結合が離開

垂直方向の外力により、左右の腸骨翼の高さに左右差

## 骨盤骨折の重症度は靭帯損傷が鍵



## 骨盤骨折の分類と重症度



### 創外固定術の対象とピン刺入部

術式 対象 ピンの刺入部

簡易固定法



- 全症例
- ・ピンなし



- Anterior flame
- ・部分不安定型
  - ・腸骨棘
  - ・下前腸骨棘
  - ・AP compression
  - ・Lateral compression



- C-clamp
- ・完全不安定型
  - ・腸骨翼
  - ・Vertical Shear
  - ・仙骨縦骨折

### 日本外傷学会・骨盤損傷分類

#### I型 安定型骨盤損傷

(a.片側性 b.両側性)

#### II型 不安定型骨盤損傷

(a.片側性 b.両側性)

#### III型 重度不安定型骨盤損傷

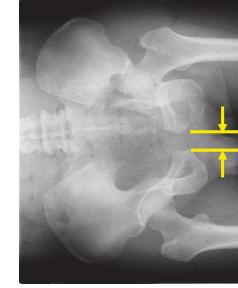
(a.片側性 b.両側性 c.垂直性)

### I型 安定型骨盤損傷

(a.片側性 b.両側性)

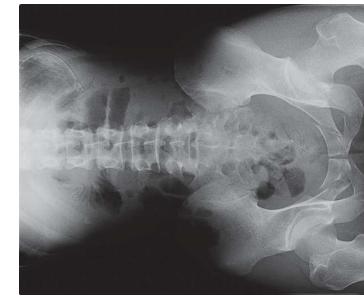
#### II型 不安定型骨盤損傷

(a.片側性 b.両側性)



#### III型 重度不安定型骨盤損傷

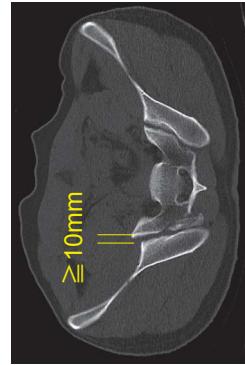
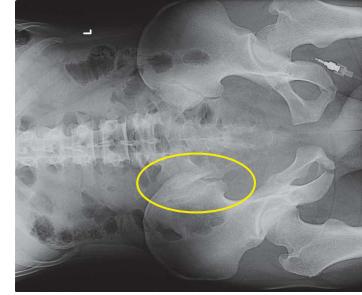
(a.片側性 b.両側性 c.垂直性)



### III型 重度不安定型骨盤損傷

(a)片側性 b.両側性)

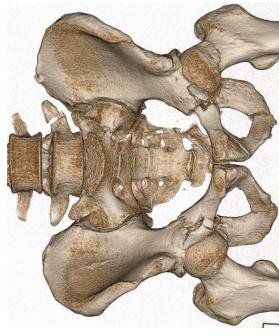
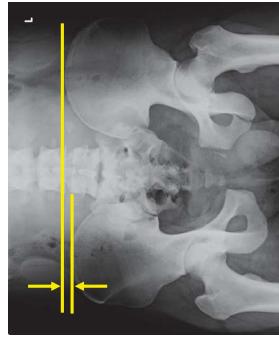
- 単純X線像:後方骨盤輪の離開
- CT: 10 mm以上の離開



### III型 重度不安定型骨盤損傷

(c)垂直性)

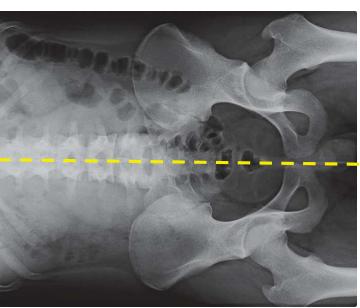
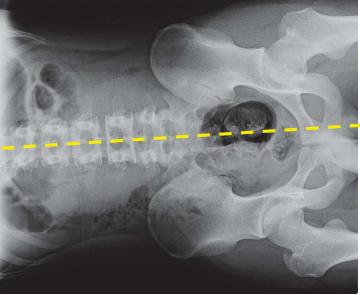
- 第5腰椎横突起骨折
- 離解のある仙骨骨折
- 片側骨盤の1cm以上の頭側転位



- 骨盤横径の左右差
- 回旋不安定型骨折

### 骨盤正面X線像の注意点

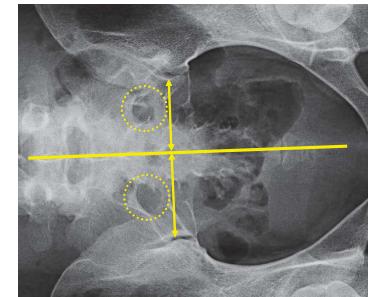
正面性:高い



正面性が低いと正しく評価できない

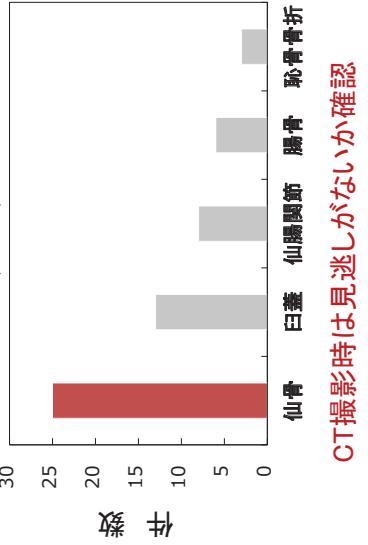
### 仙骨骨折

- 仙骨棘突起から仙腸関節までの距離の左右差
- 仙骨孔の形状の左右差



### 骨折が見逃された骨盤外傷

(件) 2001年11月～2006年3月  
(n=49)



CT撮影時は見逃しがないか確認。



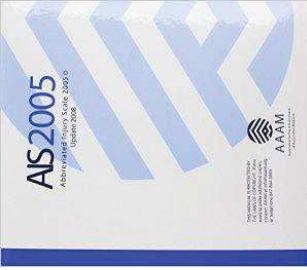
## Abbreviated injury scale (AIS)

- 1971年発表
- 米国自動車医学振興協会(AAAM)から発表された「外傷の種類と解剖学的重症度を表すコード体系」

AIS90 update 98



AIS2005 update 2008



## Abbreviated injury scale (AIS)

AISスコア		重症度
1	軽症(minor)	
2	中等度(moderate)	
3	重症(serious)	
4	重篤(severe)	
5	瀕死(critical)	
6	即死(maximum)	

AIS3以上が複数⇒多発外傷

### 頭頸部のAISスコア (一部抜粋)

AISスコア	頭蓋骨	硬膜外(下)血腫	顔面(上顎骨骨折)	AISスコア	肺挫傷 (片側)	肺裂傷 (両側)	肺裂傷 (片側)	肺骨骨折 + 血氣胸
1				1				
2	単純骨折	Le fort I, II		2	縦隔気腫 あり			2-3本
3	頭蓋底骨折 陥没骨折≤2 cm	Le fort III		3	片側	縦隔血腫 あり	≥片側4本	1-3本
4	複雑骨折 陥没骨折>2 cm		≤50 ml ≤1 cm	4	両側	縦隔気腫または 縦隔血腫あり	≥両側4本	≥片側4本
5		>50 ml	両側	5	緊張性気胸 あり	緊張性気胸 あり	≥両側4本	肺挫傷 あり
6		>1 cm					6	

### 胸部のAISスコア (一部抜粋)

AISスコア	肺挫傷 (片側)	肺裂傷 (両側)	肺骨骨折 + 血氣胸	AISスコア	肺裂傷 (片側)	肺骨骨折 + 血氣胸	AISスコア	肺挫傷 なし
1				1				
2	縦隔気腫 あり							1本
3	片側	縦隔血腫 あり						
4	両側		縦隔気腫または 縦隔血腫あり					
5			≥両側4本	≥片側4本				
6								

### 腹部のAISスコア (一部抜粋)

AISスコア	肝(裂傷)	脾(裂傷)	膵(裂傷)	AISスコア	脾管損傷なし	脾管損傷	AISスコア	腎(裂傷)
1								
2	≤3cm	≤3cm			≤1cm			
3	>3cm	>3cm			>1cm	溢尿なし		
4	>3cm (多数)	血管損傷	膨大			腎盂・腎孟 血管損傷		
5	複雜性	脾門部損傷	複雜性					腎茎部損傷
6								

### Injury severity score (ISS)

- AISの高い上位3部位を抽出し、2乗し加算
- 15点以上 重症
- 25～34点 死亡率 30%
- 35点以上 死亡率 50%

## 生理学的重症度の指標 Revised trauma score (RTS)

コード(点数)	意識レベル (GCS)	収縮期血圧	呼吸数	
4	13～15	90以上	10～29	
3	9～12	76～89	30以上	
2	6～8	50～75	6～9	
1	4～5	1～49	1～5	
0	3	0	0	

0.9368 × GCS点数  
+ 0.7326 × 収縮期圧点数  
+ 0.2908 × 呼吸数点数

(最重症:0点 最良:7.84点)

## 外傷における重症度評価と予後予測 Trauma and injury severity score( TRISS )

□ 生理学的重症度の指標 (Revised trauma score : RTS)
□ 解剖学的重症度の指標 (Abbreviated injury score : AIS)
□ 予測生存率 (Probability of survival : Ps)

$$RTS = \frac{0.9368 \times GCS \text{点数}}{0.7326 \times \text{収縮期圧点数}} + \frac{0.2908 \times \text{呼吸数点数}}{\text{(最重症:0点 最良:7.84点)}}$$

↓

## 予測生存率 Probability of survival:Ps

$$= \frac{1}{(1 + e^{-b})}$$

$$b = b_0 + b_1 + RTS + b_2 + ISS + b_3 \times \text{年齢スコア}$$

b0	b1	b2	b3
鈍的外傷	-0.4499	0.8085	-0.0835
穿通性外傷	-2.5355	0.9934	-0.0651

年齢スコア：55歳以上は1点、55歳未満は0点

- Unexpected death (予期せぬ外傷死) : Ps > 0.5
- Preventable trauma death (防ぎえた死) : 0.25 ≤ Ps ≤ 0.5
- Non-PTD(防ぐことができなかつた死) : Ps < 0.25

## 内 容

- 胸部・骨盤単純X線撮影の注意点
- 治療方針を左右する重症外傷とは
  - ・臓器損傷分類
  - ・治療方針を考えるための8項目
  - ・骨折の重症度
- 外傷全身CT撮影
- バックボードがCT撮影に及ぼす影響

2002年

- 外傷初期診療ガイドライン (JATEC)

### 初期診療に焦点

### 治療方針を考えるための8項目 ～外傷専門診療ガイドライン (JETEC) より～

#### 第3章 外傷治療戦術

2

外傷診療におけるCT検査の役割



### 治療方針を考えるための8項目 ～外傷専門診療ガイドライン (JETEC) より～

#### 第3章 外傷治療戦術

2

外傷診療におけるCT検査の役割

A	Age	年齢
B	Number of bleeding / bleeding space / speed of bleeding	活動性出血の数と出血部位、出血速度
C	Coagulopathy associated with trauma	外傷由来の血液凝固障害
D	Drug and history	薬物服用歴と既往歴
E	Event to study time	受傷から検査または診察までの時間
F	Form of organ injury	損傷形態、被膜損傷の有無
G	Grade of energy / Glasgow Coma Scale	受傷エネルギーと意識レベル
S	Shock and vital signs	ショックの有無と生理学的兆候の推移

2014年

- 外傷専門診療ガイドライン (JETEC)

### 根本治療に焦点



## Age 年齢

**Number of bleeding / bleeding space / speed of bleeding**  
活動性出血の数と出血部位、出血量

若年者	老人	数	出血部位	出血量
耐久性・治療反応性 good	bad	• 1カ所	• Tight space (筋)	小
組織間の密着性 tight	loose	• 2カ所 ⋮	• Loose space (後腹膜) • Free space (腹腔)	中 大

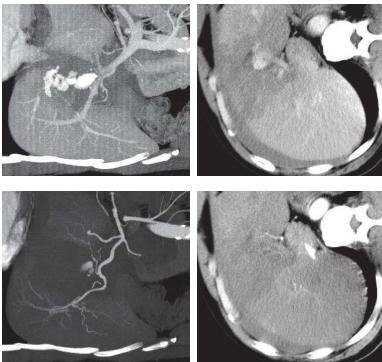
治療困難

耐久性・治療反応性 good	bad	• 1カ所	• Tight space (筋)	小
組織間の密着性 tight	loose	• 2カ所	• Loose space (後腹膜)	中
組織間の密着性 loose	⋮	⋮	• Free space (腹腔)	大
• 出血大 • 止血困難 • 治療困難				

## Number of bleeding / bleeding space / speed of bleeding

### 活動性出血の出血速度

動脈優位相 実質相



早い流れ  
動脈性

緩い流れ  
静脈性・門脈性

## Number of bleeding / bleeding space / speed of bleeding

### 外傷由来の血液凝固障害

- 鉛的外傷で生じる線溶亢進型DICの有無  
(disseminated intravascular coagulation) →

適切な止血方法の選択

## Drug and history

### 薬物服用歴と既往歴

血液凝固障害を来す服用薬物・既往歴

- 抗凝固薬
- 抗血小板薬

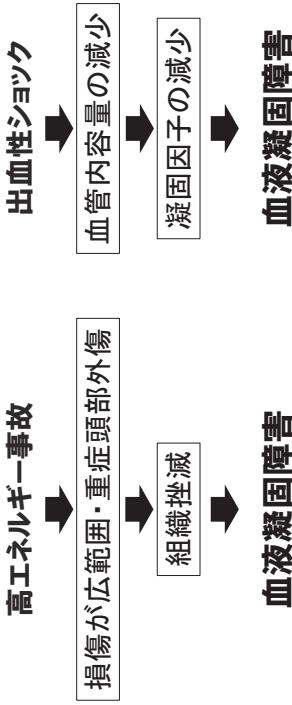
- 肝硬変
- 心大血管手術後
- 血友病
- 血管疾患など

## Number of bleeding / bleeding space / speed of bleeding

受傷エネルギーと意識レベル

## Shock and vital signs

### ショックの有無と生理学的兆候の推移

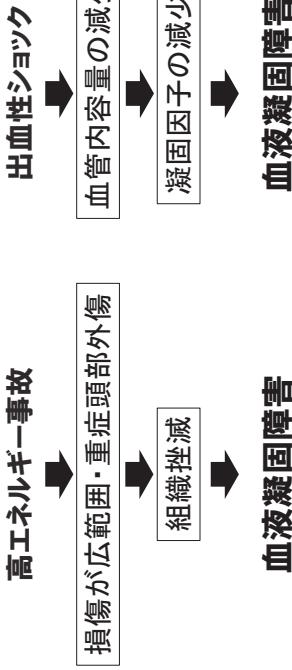


## Grade of energy / Glasgow Coma Scale

受傷エネルギーと意識レベル

## Shock and vital signs

### ショックの有無と生理学的兆候の推移



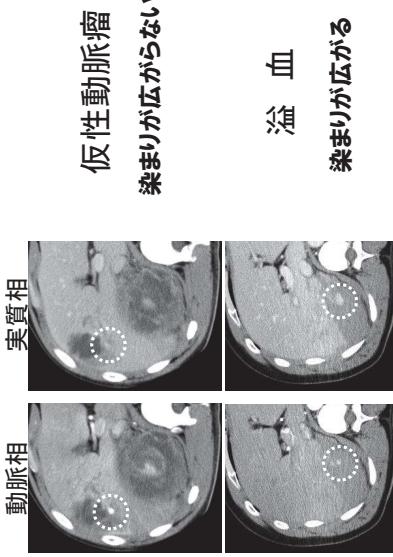
## Event to study time

受傷から検査または診察までの時間



## Form of organ injury

損傷形態、被膜損傷の有無



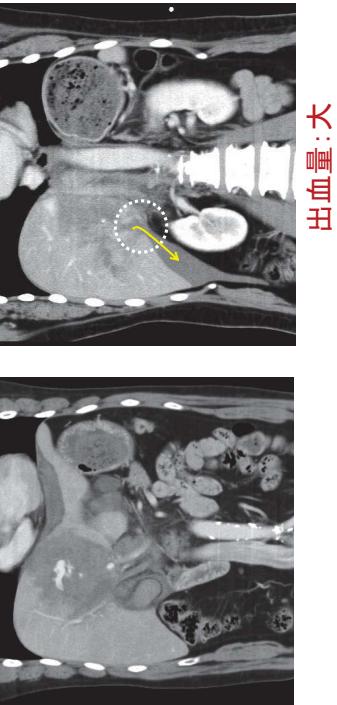
出血量が同程度なら、受傷から検査までの時間が短い方が重症

## Form of organ injury

損傷形態、被膜損傷の有無

今後の出血量の予測：被膜断裂の評価

被膜断裂



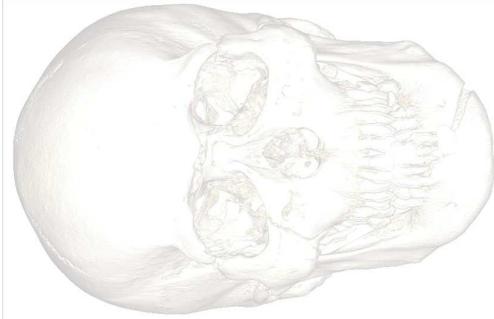
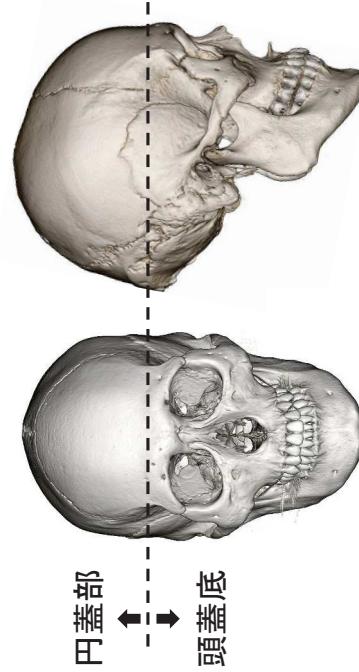
出血量:大

## 内 容

### 胸部・骨盤単純X線撮影の注意点

- 治療方針を左右する重症外傷とは
- 脏器損傷分類
  - 治療方針を考えるために8項目
  - 骨折の重症度
- 外傷全身CT撮影
- バックボーンCT撮影に及ぼす影響

## 重症な頭蓋骨骨折とは？



## 頭部・顔面

## 日本外傷学会頭部外傷分類 頭蓋骨骨折の重症度

軽症	中等症	重症
線状骨折	● 骨折線が血管溝と交差しない ● 静脈洞を超えない	● 骨折線が血管溝と交差する ● 静脈洞を超える
円蓋部骨折	● 1 cm以下の陥没 ● 非開放性	● 1 cm以下陥没 ● 開放性 ● 隘部が外界と交通

### 頭蓋底骨折

骨折の「部位」や「形態」により「重症度」が異なる

### 横静脈洞と交差する後頭骨骨折

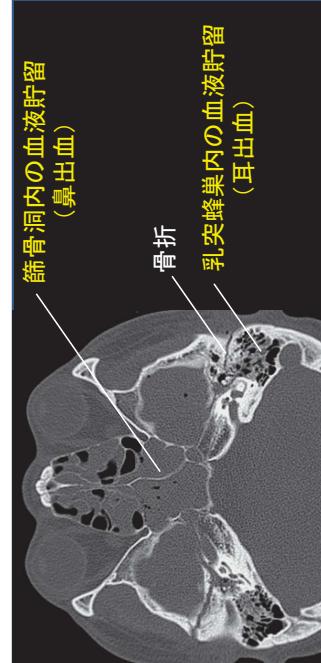
中等症  
大量の術中出血を来たした症例  
実質条件 (矢頭:急性硬膜外血腫)  
骨条件 (矢頭:骨折線)  
Volume rendering (VR)  
(矢頭:骨折線)



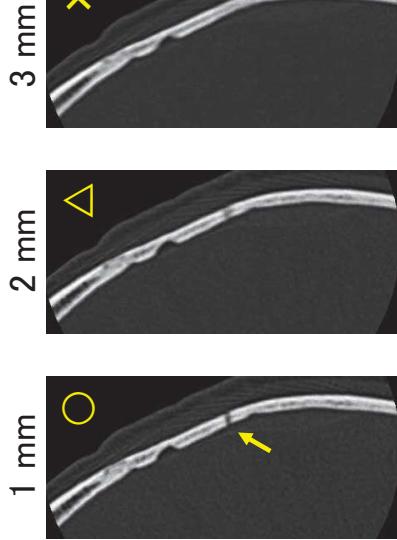
VRによる解剖学評価は重症度判定に有用

### 鼻・耳出血を伴う頭蓋底骨折

#### 重症



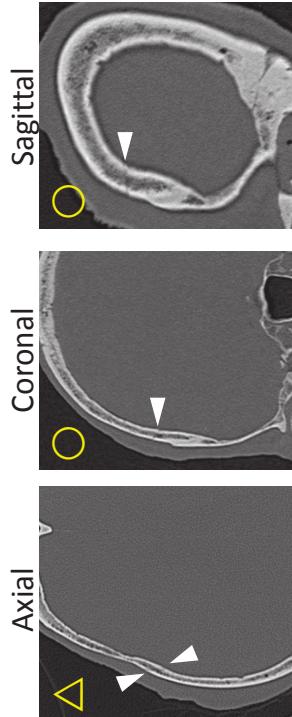
### 撮影条件と骨折線の抽出 スライス厚の影響



VRによる解剖学評価は重症度判定に有用

### 撮影条件と骨折線の抽出 スライス断面方向の影響

再構成スライス厚 0.5 mm

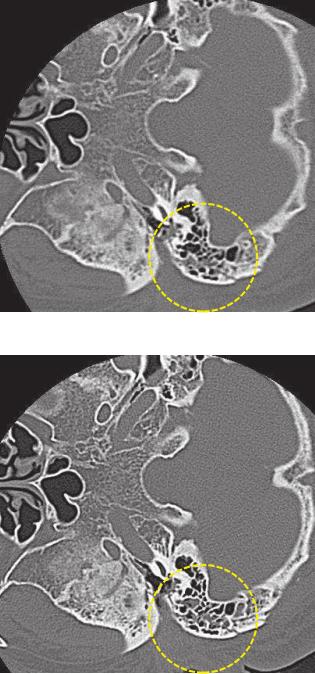


骨折線の方向により  
骨折線が異なる  
抽出が異なる

### 撮影条件と骨折線の抽出 焦点サイズと空間分解能

小焦点

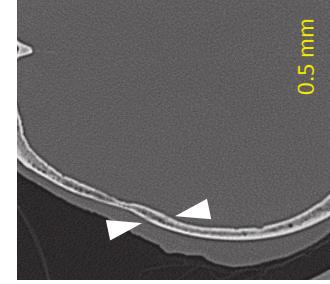
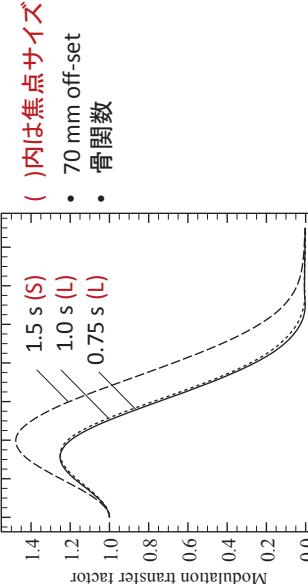
大焦点



耳出血→側頭骨骨折?→小焦点撮影も考慮

## 撮影条件（回転速度・焦点サイズ）と空間分解能

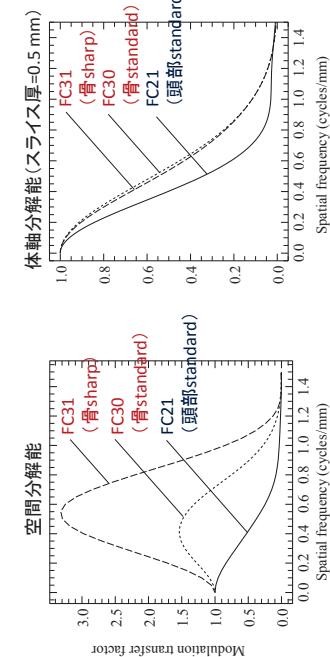
### Volume rendering(VR)の骨折線の抽出



- VRは最少スライス厚で構成 ⇒ 骨折の抽出能が高い。
- 骨閑数のVRは？

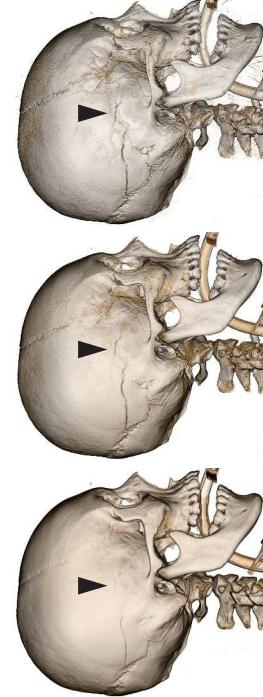
## 再構成閑数と体軸分解能

頭部閑数 = FC21 骨閑数 = FC30 (standard), 31 (sharp)



## VRと再構成閑数

頭部standard (FC21)  
骨standard (FC30)  
骨sharp (FC31)



- 骨閑数のVR → 骨折線や縫合の抽出が鮮鋭
- ノイズの影響も比較的低い

## 上顎骨骨折

Le Fort R. Etude expérimentale sur les fractures de la mâchoire supérieure. Rev Chir 1901;23:208-227, 360-379, 479-507. 2. Rhea JT, Mullins ME, Novel

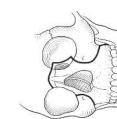
Le fort I , III

Le fort II , III

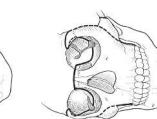
Le fort III



Le fort I 型



Le fort II 型



Le fort III 型



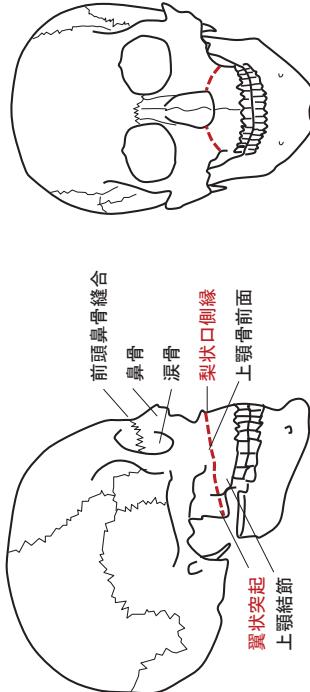
引用元: Wikipedia

## 上顎骨骨折の合併症

Le fort I , III	眼瞼腫脹
Le fort II , III	眼瞼腫脹
Le fort III	眼瞼腫脹
Le fort I , III	眼球陥没
Le fort II , III	眼球陥没
Le fort III	眼球陥没
Le fort I , III	異常可動性
Le fort II , III	異常可動性
Le fort III	異常可動性
Le fort I , III	咬合不全
Le fort II , III	咬合不全
Le fort III	咬合不全
Le fort I , III	鼻出血
Le fort II , III	鼻出血
Le fort III	鼻出血
Le fort I , III	上気道狭窄・閉塞
Le fort II , III	上気道狭窄・閉塞
Le fort III	上気道狭窄・閉塞
Le fort I , III	複視
Le fort II , III	複視
Le fort III	複視
Le fort I , III	内眼角隔離
Le fort II , III	内眼角隔離
Le fort III	内眼角隔離
Le fort I , III	流涙(涙道骨折)
Le fort II , III	流涙(涙道骨折)
Le fort III	流涙(涙道骨折)
Le fort I , III	副鼻炎(頭蓋底骨折)
Le fort II , III	副鼻炎(頭蓋底骨折)
Le fort III	副鼻炎(頭蓋底骨折)
Le fort I , III	血管損傷
Le fort II , III	血管損傷
Le fort III	血管損傷

↑ 重症 ← 重症

## Le fort I型 骨折



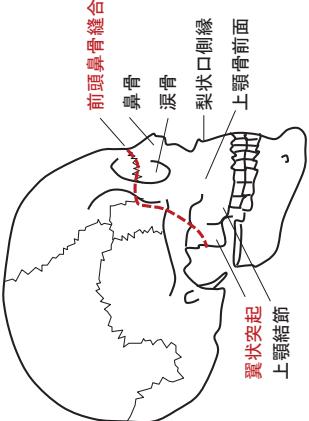
梨状口側縫線から上頸洞前面を横に走り、  
上頸結節を経て腰状突起に達する。

## Le fort II型 骨折



前頭鼻骨縫合から涙骨節骨縫合を経て、下眼窩裂を通り、  
頸骨上頸結合、上頸骨側縫線を経て、腰状突起に達する。

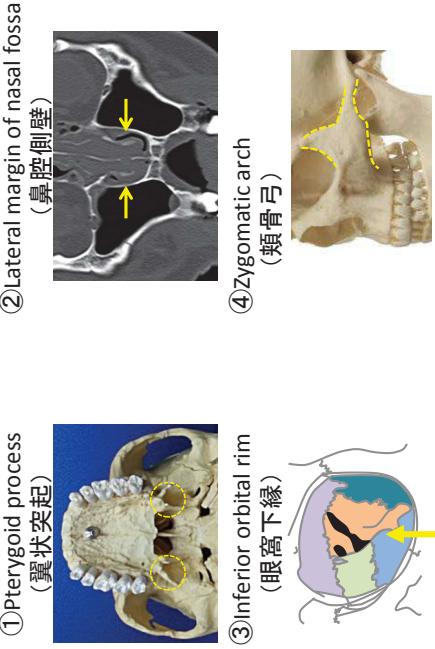
## Le fort III型 骨折



前頭鼻骨縫合から眼窩の内側・後壁・外壁を経て、  
前頭篩骨縫合に至り、頸骨弓を経て、上頸骨後壁、腰状突起に至る。

James T.Rhea et al.  
AJR 2005; 184: 1700-1705.

## Le fort 骨折 ~簡易診断法~

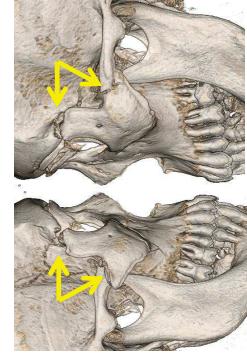
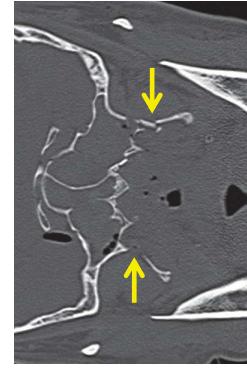


## 重症

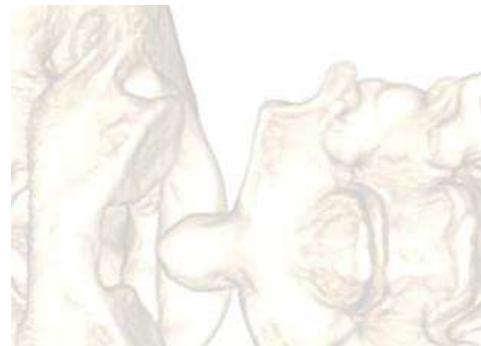
## Le fort III型

骨折部位	I	II	III型	評価画像
①翼状突起	○	○	○	—
②鼻腔側壁	○			Coronal, VR
③眼窩下縁	○			Coronal, VR
④頸骨弓	○			Axial, VR

Coronal

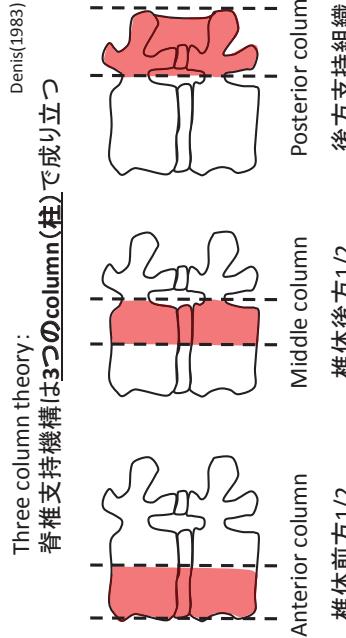


「翼状突起」の骨折  
「眼窩下縁」の骨折  
「頸骨弓」の骨折



# 脊椎

## 脊椎損傷の重症度

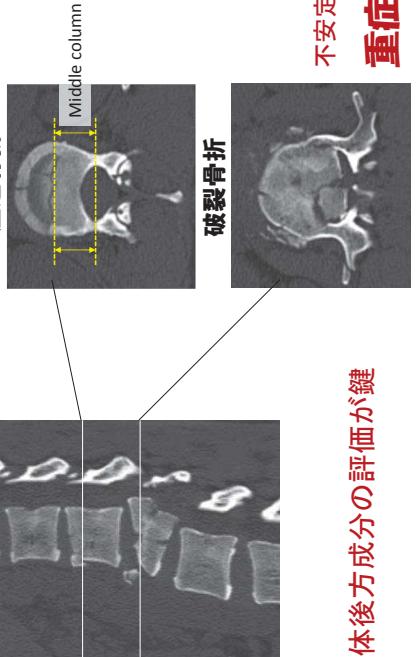


「Middle column」を含む損傷は手術適応となる場合が多い

### 重症

## 圧迫骨折と破裂骨折

### 圧迫骨折



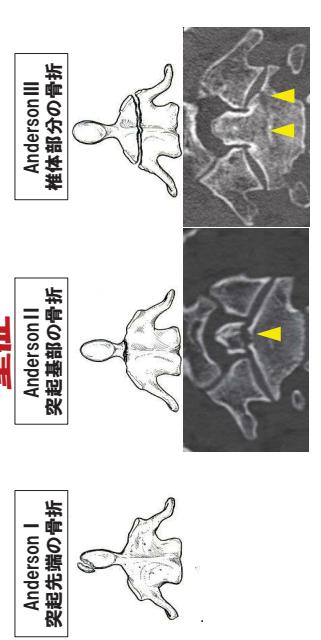
椎体後方成分の評価が鍵

不安定  
**重症**

- Halo vest
- C1-2 固定
- Odontoid screw

## 歯突起骨折

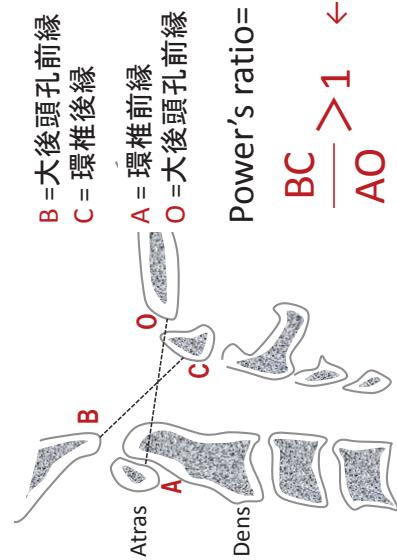
### 重症



- Halo vest
- C1-2 固定
- Odontoid screw

## 環椎後頭関節脱臼 (Power's ratio)

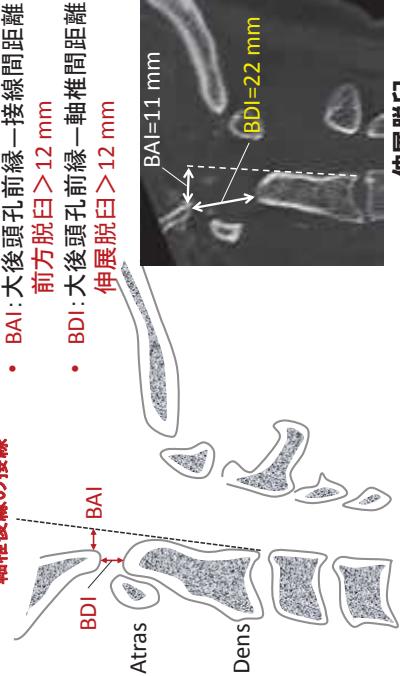
### 重症



### 重症

## 環椎後頭関節脱臼 (Harris method)

### 軸椎後縁の接線

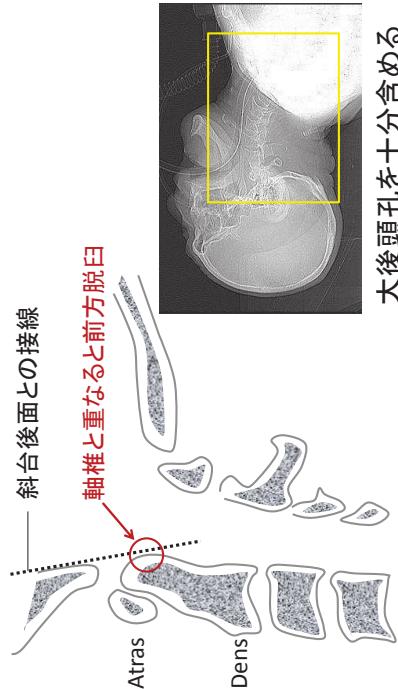


- BAI: 大後頭孔前縁 - 接線間距離  
前方脱臼 > 12 mm

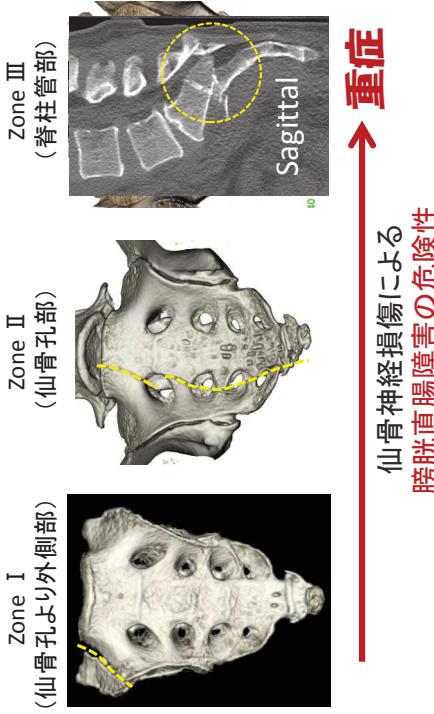
- BDI: 大後頭孔前縁 - 軸椎前縁  
伸展脱臼 > 12 mm

伸展脱臼

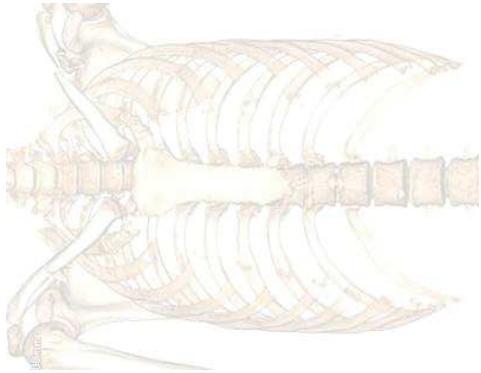
## 環椎後頭関節脱臼 (Wackenhein's clivus line) 重症



## 仙骨骨折(Denis分類)



## 胸 部



## 肋骨骨折

### 肋 骨

- 厚さ : 8~12 mm
- 皮質の厚さ : 1~2 mm

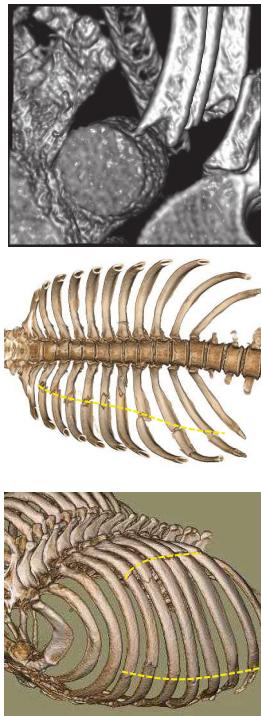
### 骨折の画像診断

- Bhavagni SJ, et al. Cleve Clin J Med 2009; 76(5): 309-14.  
単純X線→50 %の見逃し
- Kosta Petrović, et al. Vojnosanit Pregl 2013; 70(8): 757-761.  
CT→1 mm (axial, coronal, sagittal, 3D) >5 mm  
(axial) 肋骨骨折 →薄いスライス厚, MPR

## 手術適応となる“重症”肋骨骨折

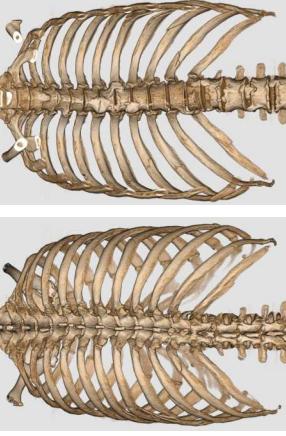
### Flail chest

3本以上の隣接する肋骨  
が2カ所以上で骨折  
が列をなして骨折

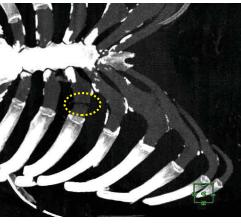


## 肋骨骨折のVR作成

### 肩甲骨をカット

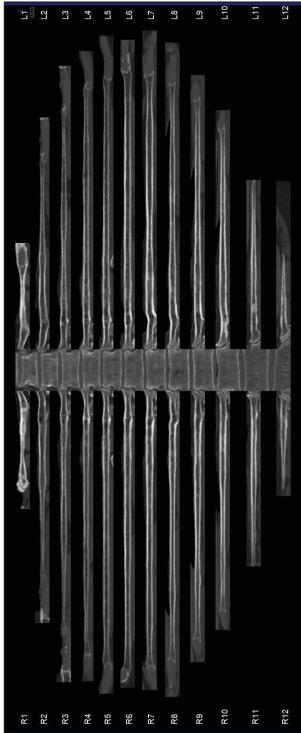


### 内→外 肋軟骨骨折(MIP)



VRは骨折部位や本数、転位の程度を評価しやすい

## 肋骨の展開表示



情報提供:シーメンス・ジャパン株式会社

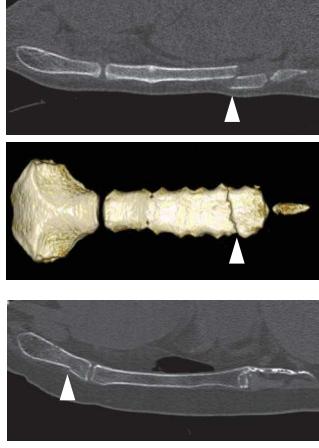
### 骨折部位の迅速診断が期待できる



- ・ハンドル外傷、シートベルト外傷に多い
- ・転位が大きい場合、心損傷(不整脈・低血圧)を考慮
- ・Sagittalが転位の程度を評価しやすい

## 胸骨骨折

重症



- ・ハンドル外傷、シートベルト外傷に多い
- ・転位が大きい場合、心損傷(不整脈・低血圧)を考慮
- ・Sagittalが転位の程度を評価しやすい

## 内 容

### □ 胸部・骨盤単純X線撮影の注意点

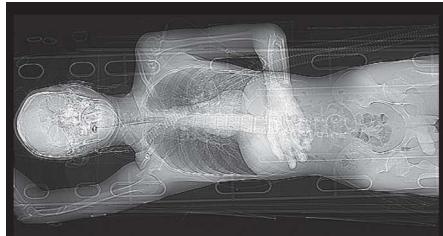
### □ 治療方針を左右する重症外傷とは

- ・臓器損傷分類
- ・治療方針を考えるための8項目
- ・骨折の重症度

### □ 外傷全身CT撮影

### □ バックボードがCT撮影に及ぼす影響

## 外傷全身CT撮影



### □ 検査目的

- ・全身の血管損傷の評価

### □ 対 象

- ・高エネルギー外傷
- ・脳血管損傷疑い
- ・鼻・耳出血
- ・上頸骨、頭蓋底骨折
- ・脳虚血症状

### □ 撮影範囲

- ・動脈相:ウリス動脈輪～骨盤
- ・平衡相:胸～骨盤
- ・単純:基本的に省略

## 外傷全身CT撮影

### 問 題 技 術

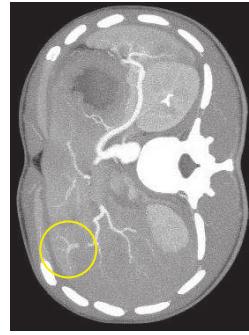
- | 問 題          | 技 術  |
|--------------|--|
| ノイズ<br>(被ばく) | <ul style="list-style-type: none"><li>・Variable helical pitch scan (SD: 5→7.5)</li><li>・Segmented scan (頭・頸部 + 体幹)</li><li>・造影剤→高濃度、高速注入</li></ul> |

- |         |   |
|---------|---|
| アーチファクト | <ul style="list-style-type: none"><li>・頭蓋底→低ピッチファクタ</li><li>・腕→頭部外傷優位:両腕下垂</li><li>・腹部外傷優位:片腕下垂</li></ul> |
|---------|---|

- |                          |  |
|--------------------------|--|
| 解像特性の劣化<br>肝の撮影時相<br>が遅延 | <ul style="list-style-type: none"><li>・閑数の見直し (standard→sharp)</li><li>・撮影開始時間の最適化</li><li>・高ピッチファクタ</li></ul> |
|--------------------------|--|

## 肝の撮影時相

### 動脈早期相



### 動脈後期相

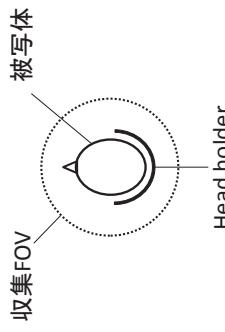


### A-P shunt

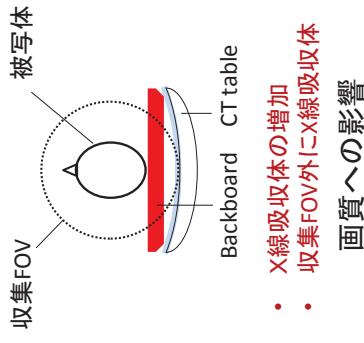
## 内 容

- 胸部・骨盤単純X線撮影の注意点
- 治療方針を左右する重症外傷とは
  - ・ 臓器損傷分類
  - ・ 治療方針を考えるための8項目
  - ・ 骨折の重症度
- 外傷全身CT撮影
- バックボードがCT撮影に及ぼす影響

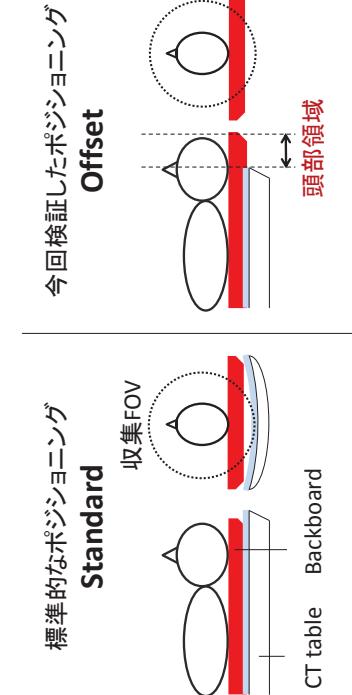
## 一般的な頭部CT撮影



## バックボード固定下の 頭部CT撮影



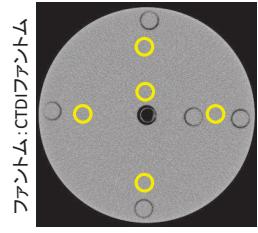
## 検 証



## 方 法 – 画質評価 –

### ①CT値測定(均一性)

ファンタム: 円柱水ファントム

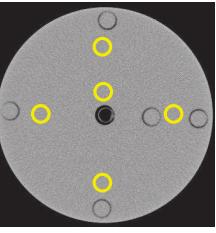


Y座標間隔が等間隔となる  
同心円上の7カ所のCT値

ROI径: φ10 mm  
5カ所(中心+周辺)の  
CT値のSDを測定し平均

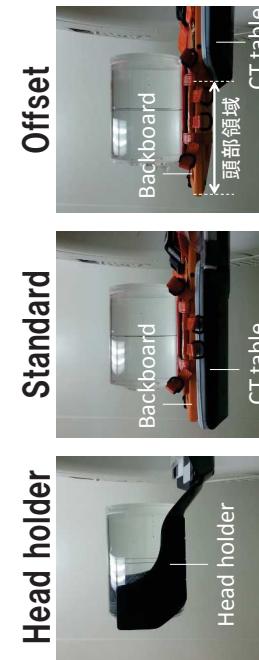
### ②Noise測定

ファンタム: CTDIファントム



ROI径: φ10 mm

## ポジショニング



## 使用機器

### □ X線CT撮影装置

- Aquilion ONE(TOSHIBA社製)
- VCT(GE社製)
- Definition(SIEMENS社製)

### □ CT値測定

- 円柱水ファントム(φ190 mm)

### □ Noise測定

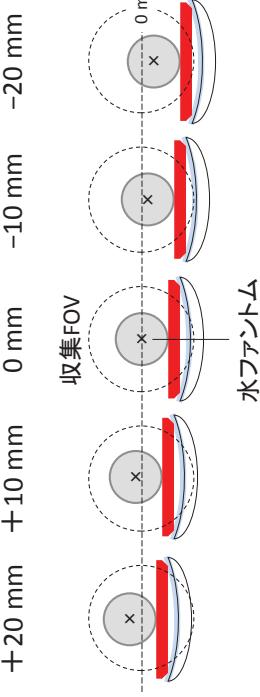
- 頭部用CTDIファントム(φ160 mm)
- 放射線モニタ: Radcal 9015型 (Radcal社製)
- チェンバー: 10X5-3CT (Radcal社製)
- ハイテクバックボード モデル2010(FERNO社製)

## 撮影条件 - CT値測定 -

## 撮影条件 - CT値測定 -

AquilionONE	VCT	Definition
S (240)	320	
M (320)		
L (400)		
LL (500)	500	
Scan mode	Non-helical scan	
Detector configuration	4 × 4 mm	4 × 5 mm
Convolution kernel	FC21	Standard
CTDIvol.(mGy)	60	

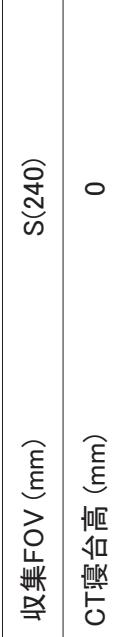
CT複台高



水ファントム

## 撮影条件 - Noise測定 -

Aquilion ONE



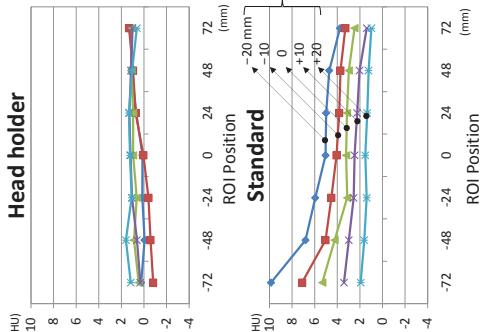
- ① CT-AEC(設定SD: 4)  
位置決め画像:正面
- ② CT-AEC(設定SD: 4)  
位置決め画像:側面
- ③ 同一管電流時間積(300 mAs)
- ④ 同一CTDI(約60 mGy)

撮影線量

## 結果 - CT値 -

Aquilion

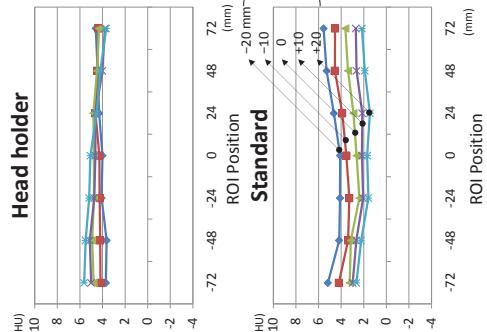
FOV: S (240 mm)



## 結果 - CT値 -

Aquilion

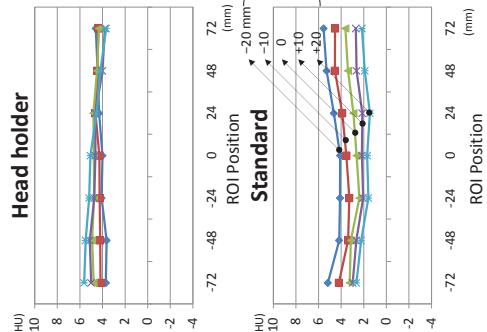
FOV: M (320 mm)



## 結果 - CT値 -

Aquilion

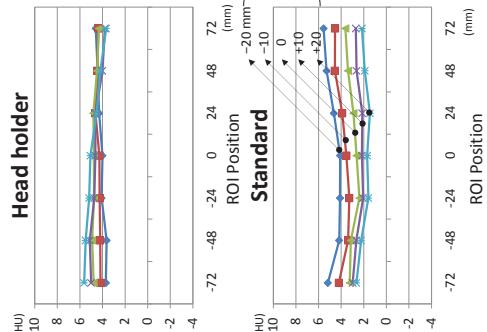
FOV: L (400 mm)



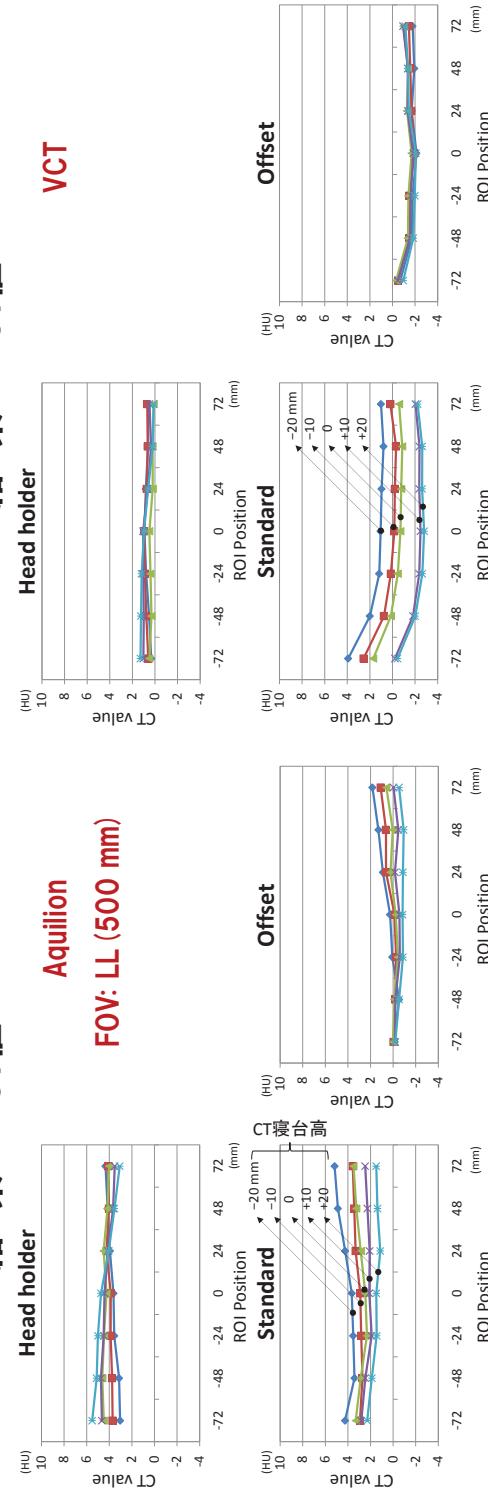
## 結果 - CT値 -

Aquilion

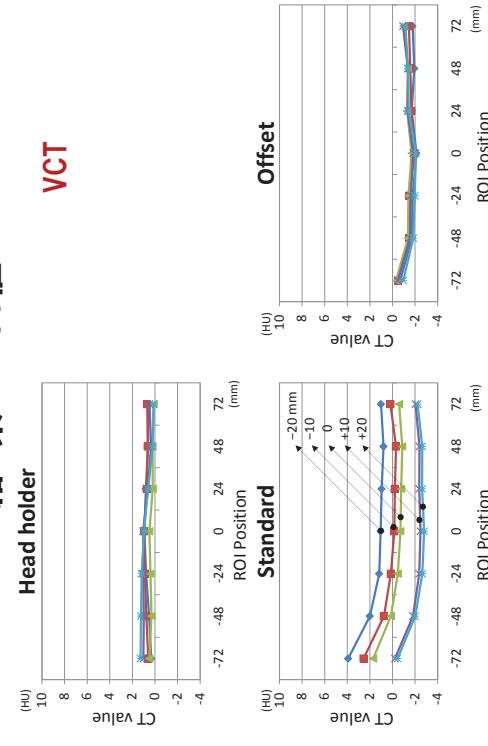
FOV: LL (500 mm)



## 結果 - CT値 -

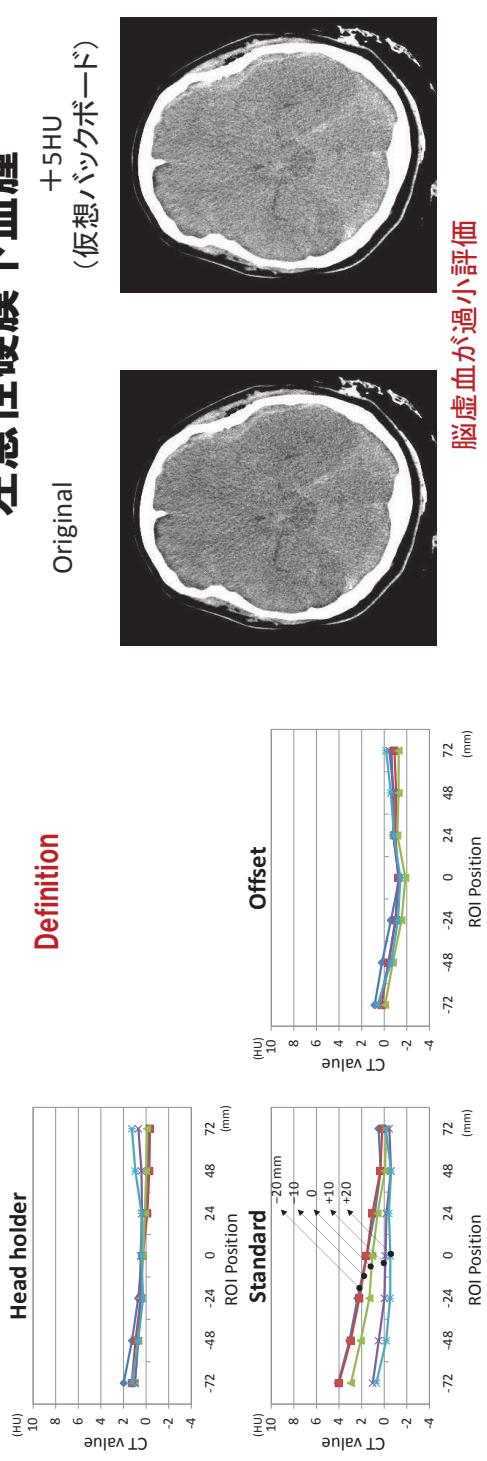


## 結果 - CT値 -



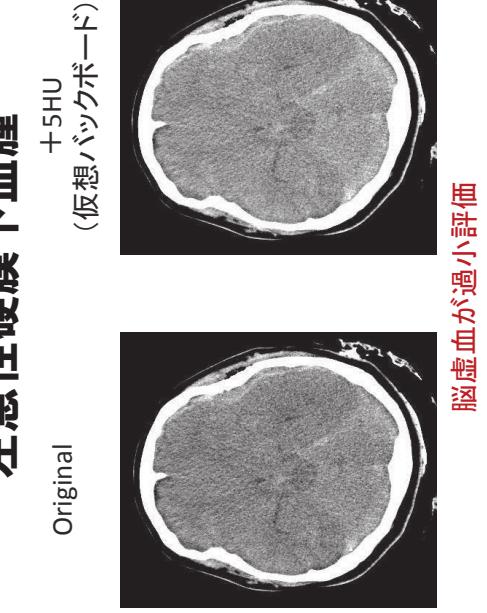
VCT

## 結果 - CT値 -



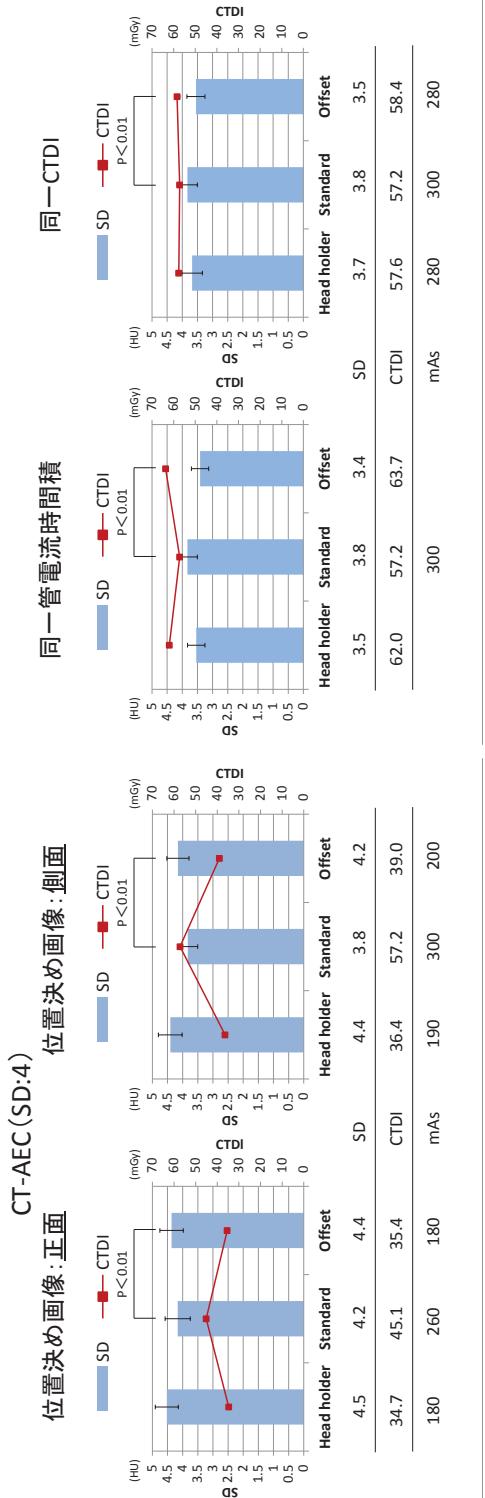
## 結果 - CT値 -

### Definition

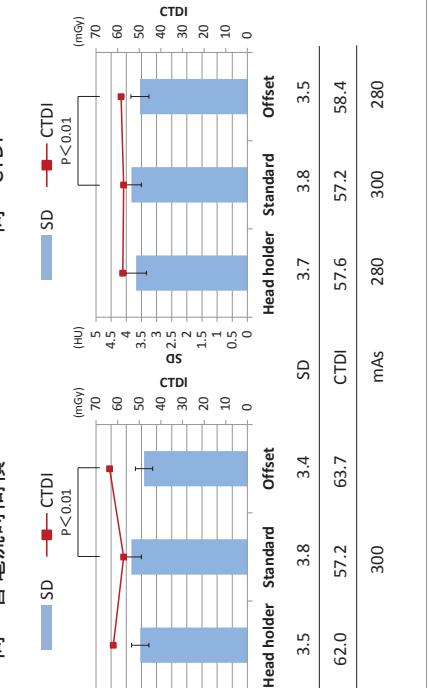


VCT

## 結果 - Noise -



## 結果 - Noise -

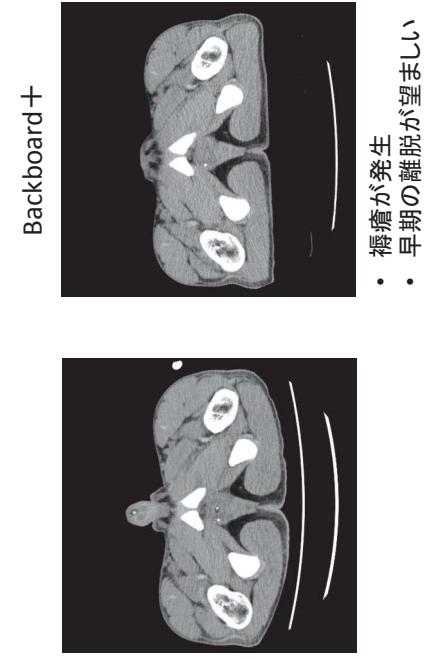


VCT

## 位置決め画像

Headholder	Standard	Offset
正面		
側面		

## バックボードあり・なし



：褥瘡が発生  
：早期の離脱が望ましい

## まとめ

- ・「重症度」は、治療方針や機能予後を決定する重要な指針の1つである。
- ・様々な外傷に存在する「重症度」を理解し、撮影技術や画像再構築に反映させることが重要。
- ・無作為な画像提供が整理され、早期診断に貢献。